



歯の移植

No.67

歯の治療で「治せないで抜くしかありません」と言われたり、そういう経験のある方が周りにいませんか？

不幸にして抜歯となってしまった場合、その後の治療法として、

- ① ブリッジ(両隣の歯を何本か土台にして抜いた部分を補う)
 - ② 義歯(入れ歯)
 - ③ 他の部位から不要の歯を移植する
 - ④ デンタルインプラント
- があります。

今回は③の歯の移植の話です。

歯の移植とは、抜歯予定の場所に親知らずなどの機能していない歯を置き換えて、かめるようにする方法で条件がそろえば、可能で成功率も高くなります。

その条件は次の通りです。

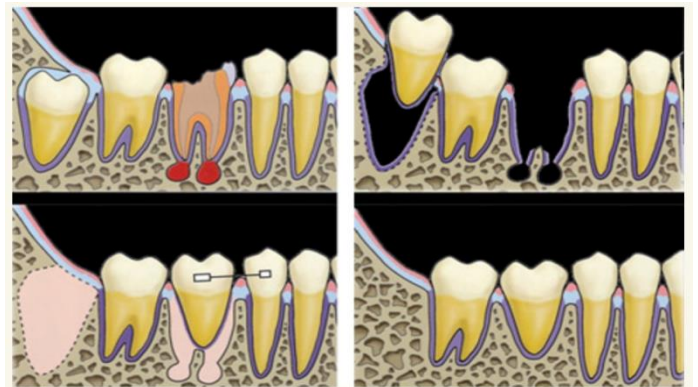
- ・移植する歯(親知らず)が存在すること
- ・移植歯を受ける場所の骨に移植される歯根がおさまるだけの幅や高さがあること
- ・移植する歯ができるだけ単純な形であること
- ・移植する歯が感染していないこと(または軽度)
- ・全ての歯が歯周病でないこと(または軽度)
- ・若年代であること(40歳までが目安)
- ・抜歯した後の穴(直後か、1か月以内位)の方が有利
- ・歯が完成していない、根未完成歯(歯根完成4/5まで)の方が有利

移植後、『**歯根膜**』という歯とあごの骨のあいだにある細胞が元のように機能すれば成功です。この歯根膜が成功の鍵です。移植歯を抜く時に傷つけない(簡単に抜ける方が)、移植するまでに歯根膜細胞が変性を受けない(短時間で終わる)、むし歯や詰め物やかぶせものや根の治療がされていないなどが成功率を高めるといわれています。

では、成功率はどのくらいでしょうか？報告者によって違いますが約80～90%といわれ、40歳以下の若年者で、抜歯後2ヶ月以内に移植を行うと、より成功率は高いと報告されています。

ただし、保険でできる条件は決まっています。移植できる歯が「親知らず」か「埋伏歯」(あごの骨の中に埋まったままの歯)で、移植する場所に歯がまだ残っていることが条件となっています。すでに抜かれてしまって、もともと歯がない場合は、保険外となります。

興味を覚えたら歯科医院で相談してみてください



一般社団法人
柏歯科医師会



<http://kashiwa.cda.or.jp/>
Email : kda@kamukamu.or.jp